



詩篇第五卷  
詩篇120篇

詩120. 2012.12.5 2012.12.6

1-4 神と答えてくださる(主の誓い・真理) vs 欺きの舌. 偽りの口  
 5-7 平和を憎む者と住み. シアローム vs 単しい  
 メシエク-ヤペテ地, ケダル-イザパイル地.  
 132に3つの場所. エフラテ-ベツレヘム, ヤアル野-キルヤテエアリム  
 120:1. 苦しみの中で 主に呼ぶと答えてくださる  
 130:1. 深い淵から. 主に呼ぶと救われる  
 132:1. お前の苦しみに 思いだしてくださる

出20: 偽りの舌と答えて下さる  
 出エジプト 1:11, 12  
 2:23-25  
 22:21-24 苦しむ者が神に祈る  
 Ps. 145:18  
 1-4 主は救う. 主に呼ぶ者と主は近い  
 1. 主は神と答える. (真理の誓い)  
 2-4 欺きの舌から救う. (偽りの誓いにさばる)  
 5-7 救いはわがいのちの中にある. 主に近い  
 5 遠い地に住んでいる (エジプトから来た)  
 6-7 平和を憎む者とともに住んでいる. (メシエク)

主の声を聞く (シヤローム x 168)  
 主は呼ぶと答える  
 民は肉いて守る  
 (主に呼ばれたら肉いて守る)  
 命令を守り (答えて)  
 (正義と公義を行なう (7:5-))  
 7: 主の家の内に立ち.  
 主のことばを聞く.  
 「主の宮...」 偽りのことば.  
 盗み殺し 偽通 偽誓...  
 神を礼拝.  
 石の偶像 (真が偽と区別)  
 主の声を聞くから. 民と子.  
 (地に住む)  
 主が民と子に住む.

詩篇120篇、都上りの歌の最初の詩篇です。

「苦しみの時に主に呼ばわると主は答えられた」というところから始まります。1から4、こちらが呼ぶと答えてくださるということと欺きの舌という戦い。5から7はシャローム、平和と共に住んでいない、災いであるということ。シャロームと戦いということの戦いです。1から4と、5から7というふうに大きく2つに分かれると思います。

「メシエクに寄留し、ケダルの天幕で暮らすとは。」メシエクはヤペテの地で、ケダルはイシュマエルの地のようです。遠い国に住んでいるということです。132篇、都上りの132篇にもエフラテ、ヤアルの野という言い方で2つ場所が出てきますので、その2つの場所ということは、この120と132をつないでいるひとつのポイントになっているのかな。エフラテはベツレヘム、ヤアルの野はキルヤテエアリム、ヤアルの複数形が(エ)ヤアリムみたいで。契約の箱が置いてあったところです。

「苦しみの中で主に呼ぶと答えてくださる」というのは、出エジプトの出だしです。1章2章の23節からなどに書いてありますけれど、苦しみの中で主に叫び求めると、主はその苦しみを思い出して、ダビデを思い出して救ってくださる、イスラエルを覚えて救ってくださるということが出エジプト、救いの出だしです。出エジプト記の22章にはそのことを覚えて、苦しむ者が叫ぶなら聞きなさい、悩む者が、貧しい者が叫ぶなら聞かなければならないという律法も書かれています。

120:1 苦しみの中で 主を呼ぶと答えること  
 130:1 深い淵から 主を呼ぶと答えること  
 132:1 神への苦しみを 思い返して答えること

主は近い B.145-18  
 1-4 主は救う。 主を呼ぶ者に主は近い  
 1. 主は呼ぶと答える。(真理の答)  
 2-4 欺きの舌から救う。(偽りの答にまぼき)  
 5-7 神はわたしの内の中にいる。主は遠い

わざわい  
→祝福  
(3+D-6)  
 5 遠い地に(住んで)いる (神は遠い)  
 6-7 平和を憎む者とともに(住んで)いる。(神は近い)

(ヤリノ種数形)  
 出エジプト 1:11,12  
 2:23-25  
 5:2  
 22:21-24 苦しむ者(偽りの答)の内  
 ネオンの107: 6,13,19,28  
 ↓  
 主の恵みに感謝せよ  
 II歴6: ソロモン。天から叫ぶと答える。  
 :36-39 遠くから...  
 詩99: シオン。呼ぶ  
 ネハミ9: ...  
 神々の神  
 神々の神  
 神々の神

氏は(内)いて。守る  
 (主に呼ばれたら、内)いて。  
 命令を守り(答える)  
 →正義と公義を行おう(7:5-)  
 7: 主の家の内に立ち。  
 主のことばを聞け。  
 「主の答...」偽りのことば。  
 盗み殺し。汚通。偽誓...  
 神々礼拝。  
 石の偶像(耳が聞こえない)  
 主の声を聞く守る。民と子。  
 (地に住む)  
 主が民とともに住む。

第5巻の始め、107篇には苦しみの中で叫ぶと、苦悩の中で叫ぶと救われたというのが繰り返して出てきて、主の恵みに感謝せよというのが第5巻のスタート地点です。

それらは、第2歴代誌の6章ソロモンが神殿を建てたときの祈りの中にはっきりと現れているところです。天から叫びを聞いて救われる。特に36節のところには、遠くの地に行っていたとしてもということ、ソロモンの約束が書かれています。詩篇99篇や、ネヘミヤ9章はソロモンの祈りも覚えていたと思われるかもしれませんが、シオンに向かって礼拝することは、呼ぶと答えてくださる場所だからだということがそのようなことからわかると思います。

主は近い B.145-18  
 1-4 主は救う。 主を呼ぶ者に主は近い  
 1. 主は呼ぶと答える。(真理の答)  
 2-4 欺きの舌から救う。(偽りの答にまぼき)  
 5-7 神はわたしの内の中にいる。主は遠い

わざわい  
→祝福  
(3+D-6)  
 5 遠い地に(住んで)いる (神は遠い)  
 6-7 平和を憎む者とともに(住んで)いる。(神は近い)

22:21-24 苦しむ者(偽りの答)の内  
 ネオンの107: 6,13,19,28  
 ↓  
 主の恵みに感謝せよ  
 II歴6: ソロモン。天から叫ぶと答える。  
 :36-39 遠くから...  
 詩99: シオン。呼ぶ  
 ネハミ9: ...  
 神々の神  
 神々の神  
 神々の神

主のことばを聞け。  
 「主の答...」偽りのことば。  
 盗み殺し。汚通。偽誓...  
 神々礼拝。  
 石の偶像(耳が聞こえない)  
 主の声を聞く守る。民と子。  
 (地に住む)  
 主が民ととともに住む。

1から4を分けてみると、1節の主は呼ぶと答えるということ、2から4の欺きの舌から救うということ、5から7は、5節の遠い地に住んでいるということに対して、6から7、その遠い地に住んでいるということは、平和を憎む者たちと住んでいるのだということが、遠い地に住んでいることの内容だと言えると思います。

呼ぶと答えてくださるのは、そこに神様がいらっしゃるから。それがシオン、神の宮、王座のあるところに行く目的になります。欺きの舌、偽りの口ということは、出エジプト記の20章、十戒の言い方を見ると偽りの証言をしてはならないということなので、偽りの証しで答えるな、答えてくださることと答えるなという、偽りの証言をするな、答えるなというのが同じことばのようですから、真理の答えと偽りの答えというのがここで対比されているかなと思われま。

それと、遠い地に住んでいること、平和を憎む者と共に住んでいることなのですから、遠い地に住んでいるということはエルサレムから離れている、神の住まい

から離れている、それは平和がないということを示していることにもなっていると思います。

ですから、この都上りの詩篇の導入で、120篇（都上りの導入の詩篇）は、1から4で主は救ってください、主は近い、主を呼ぶものに主は近くあられるという145篇にあるように、呼ぶと答えてくださる、そのシオンに向かっていく、今私は主から遠く離れている、災いの中にいる、だから平和がないのだというエルサレムから離れているということ。ですから、都に上りたいというのが120篇の役割かなと思われま